

体の対人援助の新展開――術者ファーストから患者ファーストへ、 単独療法からハイブリッド療法へ

主発表者：寺田弘志 所属先：寺田接骨院

発表者が営んでいる接骨院では、患者さんからこんな話をよく耳にします。

「今まであちらこちらに通いましたが、たいてい、ろくに話もきかずに、痛いところをもむばかりで、家に帰るとぐったりしていました。ここみたいに、一箇所ずつ、どうすれば痛くなるかききながら施術してもらったのは、初めてです」

体の対人援助の現場では、患者の症状をよく確かめもしないで、いきなり施術をはじめるところが少なくないようです。

はじめに術者のやり方ありきで、そのやり方に患者さんを合わせるため、マッチしない患者さんには効果がなく、かえって悪化させてしまうこともあります。

言い替えば、術者ファーストになっているのです。

術者ファーストになっている背景には、術者の養成機関で、どのような施術があるのかは教えられるものの、症状がなぜ出ているかや、症状に合う施術は何かを判断する方法が詳しく教えられていないということがあります。

体の症状は、同じ部位であっても、人それぞれ、どうしてその症状が起きているのかが違います。術者はいくつかのやり方を用意しておいて、患者さんの症状を見極め、その症状に合ったやり方を選択していくべきです。

つまり、患者ファーストにすべきなのです。

さて、このワークショップでは、まず、どれだけ多様な肩こりがあるかというワークを、参加者の協力の元におこないます。

次に、施術の仕方を何種類か紹介します。

この施術の仕方は、安全で穏やかな療法をハイブリッドするという新展開をしたもので、単独の療法よりもかなり即効性があります。

そして、ペアになって、症状に合わせて肩こりを解消する施術を試していただきます。

肩こり解消の原理を理解すれば、さまざまな症状に応用できます。

このワークショップで、「術者ファーストから患者ファーストへ」、「単独療法からハイブリッド療法へ」という体の対人援助の新展開を体験してください。